

施策番号	2004		
施策名	地下鉄の魅力向上とまちづくりへのさらなる活用		
概要	地下鉄を市民生活やまちづくりに積極的に活用するため、市バスをはじめとした他の公共交通機関とのネットワークの強化、駅ナカビジネスの充実など、その魅力を高め、公共交通優先の社会への転換と沿線地域の活性化を推進する。		
担当局・部室	交通局・企画総務部	共管局・部室	
上位政策	20 歩くまち		
施策に関する 主な分野別計画等	京都市高速鉄道事業経営健全化計画		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		平成 29年度	平成 30年度	令和元年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	地下鉄の旅客数(千人)	a	a	387	397	375	105.9%	a	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		平成 29年度	平成 30年度	令和元年度回答					
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数
1	地下鉄、市バスは、市民生活に役立っている。	a	a	289	281	67	33	43	713
				40.5%	39.4%	9.4%	4.6%	6.0%	
2	-	-	-						
3	-	-	-						
4	-	-	-						
5	-	-	-						
		a	a	市民生活実感調査総合評価					a

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

A	施策の目的が十分に達成されている					平成 30 年度	A
	重み付け	☒ 客観指標	a	☐ 市民の実感	a		
(重み付けの理由) 本市のまちづくりをはじめ、あらゆる政策を総動員して実現を目指す地下鉄の増客は、将来にわたる高速鉄道事業の安定的運営に向けた健全化策の最大の柱であり、客観指標による評価を重視する。						平成 29 年度	A
(原因分析) 客観指標総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		令和元年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		平成30年度 決算額	令和元年度 予算額		
1	京都市高速鉄道事業	76,959,101	80,068,000	—	交通局
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・市民の大切な財産である市バス・地下鉄を、将来にわたり安定的に運営し、「市民の足」としての役割をしっかりと果たしていくことができるよう、今後の事業環境や課題を踏まえて、令和元年度からの10年間の経営の基本的な方針や具体的取組、財政計画等を取りまとめ平成30年度に策定した「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン」に基づき事業運営を進めていく。

・経営ビジョンに掲げる長期的な目標である「地下鉄・市バスお客様1日80万人」の実現に向け、まちづくりの重要な担い手である民間団体と本市の関係局区が参画する「チーム『電車・バスに乗るっ』」において、地下鉄・市バスはもとより、民間の鉄道やバスも含めた公共交通を活用した取組を実践することで「歩くまち・京都」や「健康長寿のまち・京都」の更なる推進に寄与していく。

・これに加えて、全庁組織「地下鉄・市バスお客様1日80万人推進本部」の下、各局・各区役所が連携し、地下鉄・市バスの増客を図る取組を推進するほか、これまでから斬新な活動で成果を挙げてきた市役所内での公募メンバーによる「若手職員増客チーム」についても、「チーム『電車・バスに乗るっ』」と連携し活動を展開していく。

・また、全体の6割を占める市バスの赤字系統の利用促進に向け、区役所等と連携し、新たにプロジェクトチームを立ち上げ、市バス利用の機運を高める施策を展開する。

・引き続き、民間と行政の共汗による取組をはじめ、新たに作成する「経営レポート」等を通じて経営状況をしっかりと市民に周知し、御理解、御協力を得ながら目標達成に向けて、市バス・地下鉄の更なる増客を図っていく。

施策名	2004	地下鉄の魅力向上とまちづくりへのさらなる活用																		
指標名	地下鉄の旅客数（千人）																			
担当課	営業推進室		連絡先	8 6 3－5 0 9 4																
1 指標の説明																				
地下鉄の1日当たりの旅客数																				
2 指標の意味																				
ひとと公共交通優先の「歩くまち・京都」の発展に資する地下鉄1日5万人増客に向けた取組状況を示す指標																				
3 算出方法・出典等																				
算出方法：旅客収入から算出した1日平均旅客数 出典：事業担当課調べ																				
4 数値																				
	前回数値 平成29年度	最新数値 平成30年度	推移	目標値																
				数値	根拠	達成度														
数値	387	397	10千人増	375	京都市高速鉄道事業経営健全化計画における平成30年度の旅客数見込み	105.9%														
	全国順位	中長期目標				備考														
		数値	目標年次	達成度	根拠															
数値		375千人	平成30年	105.9%	京都市高速鉄道事業経営健全化計画における旅客数増加見込み															
5 評価基準																				
1日当たりの旅客数が a：378千人以上 b：376千人以上377千人以下 c：375千人 d：373千人以上374千人以下 e：372千人以下																				
6 基準説明																				
京都市高速鉄道事業経営健全化計画（下表）における各年度の旅客数の見込みについて、達成をcとし、2千人の増減の範囲をbまたはd、それらを上回る（下回る）増減をa（e）とした。																				
<table><tr><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr><tr><td>329千人</td><td>330千人</td><td>338千人</td><td>347千人</td><td>356千人</td><td>365千人</td><td>375千人</td></tr></table>							24	25	26	27	28	29	30	329千人	330千人	338千人	347千人	356千人	365千人	375千人
24	25	26	27	28	29	30														
329千人	330千人	338千人	347千人	356千人	365千人	375千人														
7 評価結果																				
<table><tr><td>平成29</td><td>平成30</td><td>令和元</td></tr><tr><td>a</td><td>a</td><td>a</td></tr></table>							平成29	平成30	令和元	a	a	a								
平成29	平成30	令和元																		
a	a	a																		